

 くまもとアートポリス
kumamoto artpolis

熊本県

kap

2006年度 第12回
くまもとアートポリス推進賞

KUMAMOTO ARTPOLIS

第12回くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長 村橋久昭

熊本県では、豊かな自然や歴史・風土を生かしながら優れた建築物を含む一連の施設を造り育むことを目的として「くまもとアートポリス推進賞」という顕彰事業が進められています。2006年度も、第12回目の事業が実施されました。

今年度の応募作品数は50点であり、全体的に、作品が前年度に比して良質で優れていると皆さんに好評でありました。

応募作品の分別概要は、専用住宅15点／公園5点／事務所、店舗付共同住宅および病・医院が各4点／中学校2点／アーケード、飲食店、美容室など「その他」16点で、合計50点であります。

1次審査の書類審査は、各選考委員から重み付け評価による結果を提出して戴きました。全般的に佳品が多かったために、選出作品は分散分布の評価となり、改めてリストアップされた作品を長時間に亘り討議して戴き、現地調査には9作品を選出致しました。

2次審査の現地調査は、委員全員の参加を得て10月末に2日間に渡り実施されました。

現地調査の結果、9作品のうち4作品は残念ながら落とすことになりました。例えば、山間の中学校は、素晴らしい集いのデッキテラスを持ちながら、生徒数減少の中での建築計画の制約が大きく影響し、勢い設計に大味な面が生まれ、選に漏れました。立地条件の素晴らしい住宅は、壁面を垂直・水平に配列したモンドリアン風の計画で面白さが期待されましたが、建築的な処理の曖昧さで惜しい結果になりました。熊本市内アーケードは、アーケード空間への問題提起が見えますが、無計画な横幕広告は変化に富んだ天蓋空間の良さを壊し、人々に感動を与えないだろうという結果になりました。小さな町家住宅は限られた敷地を通り土間を設定して明快であります。満載された

設計要素に疑念が見え、設計者の別作品が推進賞に選ばれました。

選出された5作品の中から、「推進賞」に相当する作品として容易に2点は選出されましたが、残り3点について討議された結果、いずれも前年度の選賞より秀逸な作品であるとして、今年度は5点の推進賞が決定されました。内訳は公園1点、専用住宅2点および歯科医院2点の計5点であり、選ばれた公園は天草市本渡の奥まった山麓にある「西の久保公園」で、花のない季節に「推進賞」に推奨されたことは全く画期的なことで、下枝を落とした檜林に囲まれている花菖蒲園は、立派な維持保全が見えて、気持ち良い公園です。

推進賞の詳解は、図面や写真と共に各選考委員の講評がありますのでご覧下さい。

「くまもとアートポリス推進賞」は、優れた建造物等を顕彰することで、都市環境ならびに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図るものであります。今後とも、熊本県内の至る所で推進賞・推進賞選賞作品を核とした、愛着の持てる土着の地域づくりが進展することを祈念致します。



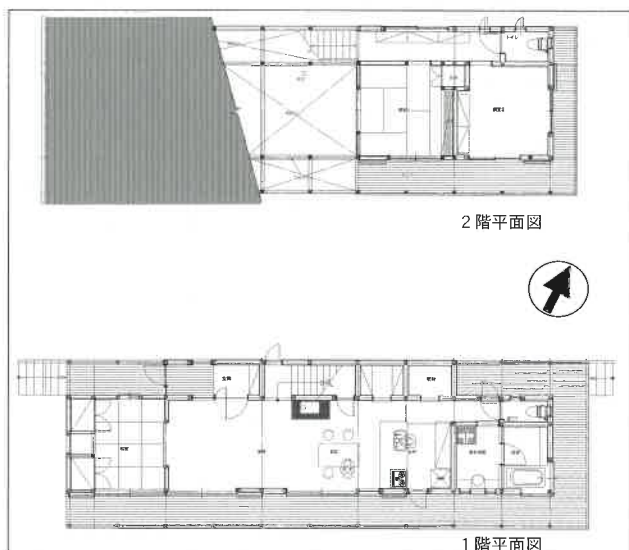


くまもとアートポリス
推進賞

kumamoto artpolis

いえ 阿蘇の舎

- 所在地 ■ 阿蘇市一の宮町宮地
- 竣工年月 ■ 平成18年2月
- 用途 ■ 専用住宅
- 構造 ■ 木造
- 階数 ■ 地上2階
- 敷地面積 ■ 1,244.2㎡
- 建築面積 ■ 115.6㎡
- 延床面積 ■ 119.9㎡
- 事業主 ■ 松浦朝海
- 設計者 ■ ばん設計小材事務所
- 施工者 ■ 株式会社山口工務店



2階平面図

1階平面図

「阿蘇の舎」は、別荘が並ぶ阿蘇市一の宮町宮地のリゾート地で、山桜の木立に溶け込むように建っていた。

施主は関西の官公庁をリタイヤしたご夫婦「緑の多さが気に入った」ことから別荘として建てたが、いまや生活の拠点として住み続けているという。

設計のポイントは、そのままの自然を生かすこと。約四百坪の敷地にあった立木をなるべく伐採しないですむよう、建物は敷地に斜めに置かれ、地面から一・四メートル持ち上がった床の下も、建築後に元の植生を戻したほどだ。

外観は黒一色で、木造二階建ての細長い形状。玄関から奥に向かって片流れの大屋根が盛り上り、一、二階ともに広い板張りデッキが取り巻く。一階には薪ストーブが置かれたリビングと和室、水回り。二階に個室が二つ。大窓から阿蘇の景観が望めるのはもちろん、室内は黒い梁や柱がアクセントになってすっきりした印象だ。

家の周りはふかふかの腐葉土に囲まれ、かれんな野草が花を咲かせていた。「自然の中にそっとおじゃました」という風情は、施主が望むライフスタイルを体現しているようだった。

(松尾正一)



リビング

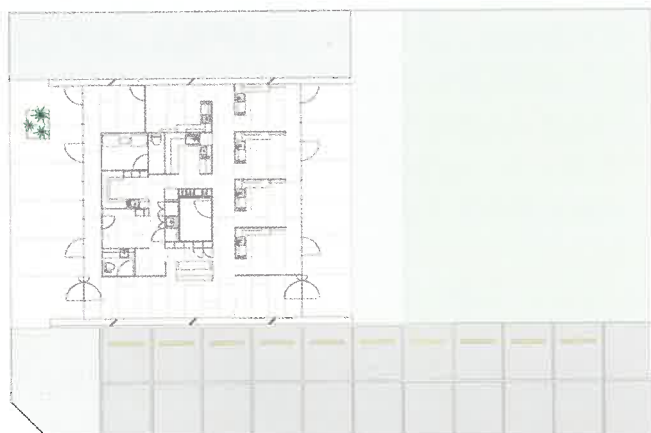


2階デッキ



nina Dental Clinic

所在地 ■ 八代市田中東町6-10
 竣工年月 ■ 平成18年4月
 用途 ■ 歯科医院
 構造 ■ 鉄筋コンクリート造一部木造
 階数 ■ 地上1階
 敷地面積 ■ 791.21㎡
 建築面積 ■ 170.24㎡
 延床面積 ■ 150.09㎡
 事業主 ■ 川村順子
 設計者 ■ 高安重一・遊佐公一／有限会社アーキテクチャー・ラボ
 施工者 ■ 株式会社日動工務店



新しく区画整理され、まだ性格の定まらない住宅地の一面にこの建物はある。全く愛想がないほど単純な姿だが、それ故によく目立っている。しかもその単純さは、周りの風景を壊すようなものでも、冷たいものでもなく、優しい内部を納める器として相応しい。両袖の壁と底による構えと前面のガラスのスクリーンによって、周辺のまちとの関係を積極的にもとんとする姿勢が感じられる。そして「カフェのような歯医者さん」を希望したオーナーの挑戦にも見事に応えている。

この明快な形態は、用意周到に考えられた結果である。それはいかにフレキシブルな空間をつくるかという試みである。この建物には柱がなく、両袖のコンクリートの壁の間に積層材の格子状の梁を掛け渡すという構成である。また床下は人が入れるほどの(80cm)空間が設けられていて、全ての設備を収めることができる。この上下の2つの仕掛けによって、全く自由なプランニングが可能となる。

ここでの、間仕切ることをせずに、大きな家具のように部屋や壁を置くという構成は、空間の特性を充分生かしている。それによって得られた天井の連続性は、空間の上部で光が導かれるという思いがけない気持ちのよい効果を生み出している。また作者が意図したように、格子梁によって規則的につくられた天井空間と、家具的に配置された空間とのずれは、空間に動きを与え、本来緊張を強いられる治療の空間を、優しいものに変えている。庭と一体になった治療空間も快適である。

極めて知的なアプローチによって、親しみのある優しい空間を生み出していたことは、新鮮な驚きであった。

(元倉眞琴)



廊下から待合室を見る

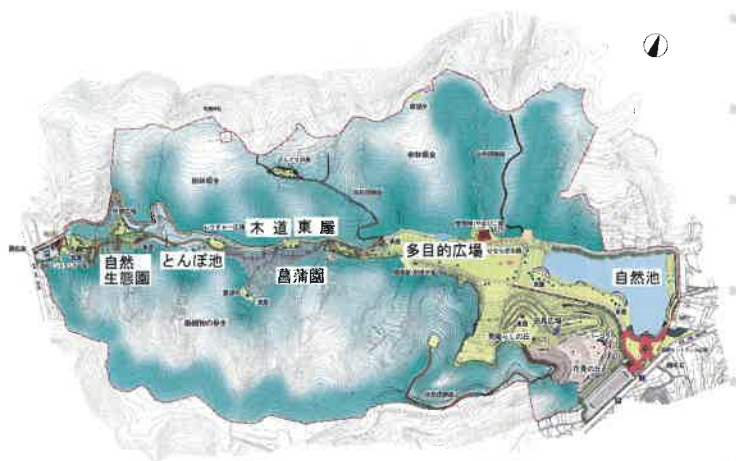


待合室から診察室を見る



西の久保公園

- 所在地 ■ 天草市本渡町西の久保
- 竣工年月 ■ 平成18年3月
- 用途 ■ 公園
- 敷地面積 ■ 368,000㎡
- 事業主 ■ 天草市
- 設計者 ■ 株式会社大揮環境計画事務所
- 施工者 ■ 有限会社天祐建設工業所他



西の久保公園全体図

「もともとの地形を生かした」、「やすらぎを与えてくれる」 たった三行の応募文章中にあったこの言葉が、僕たちを天草に惹きつけた。見事だろうなと予想される菖蒲は、あいにくこの季節にはない。それでも行ってみたいと思わせる不思議な気配。自然の魅力そのものというよりは、むしろ自然と人間がどのように隣り合ったらいいのを感じさせる一枚の写真が引き伸ばされていた。

棚田も杉や桧の林も、緑の景観ではあるがもともと自然のものではない。畦をおこし、下草を刈って、人の手が入って初めて成立する。人々は周囲の野山の中からそれに適した地形を選ぶのだが、いわばそこが人と自然のつきあいの始まり。この西の久保公園には、そんな人と自然の関わりを、それこそ自然に体験できるような、公園づくりに対するゆったりとした考え方が流れている。訪れる人はまず豊かな水面に迎えられ、草はらの広場からせせらぎを辿って、里山の懐に分け入っていく。林に繁茂する美しいシダ類や、ウッドチップ敷きの散策道の柔らかな歩行感に誘われて、次第に沢の奥へと進むと、やがて棚田を活用した一面の菖蒲園に辿り着く。自然の地形、人工林、棚田の菖蒲園の絶妙なランドスケープが目の前に広がる。ああ、これだ。これを見たくて来たんだなと妙に得心する。自然に最上段にまで登って見下ろしたくなる光景だ。

もとあった地形にはほとんど手を加えず、人が自然にふれあえる場所に模様替えする。隅々にまで気を配り、いっぺんに作らず少しずつ手を入れて、時間をかけて次第に出来上がるようにデザインされている。

(古谷誠章)



自然生態園



菖蒲園入口

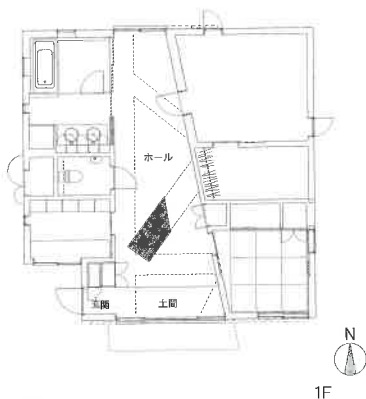


くまもとアートポリス
推進賞

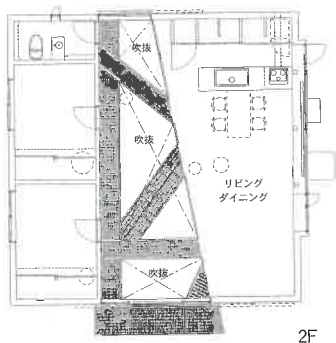
kumamoto artpolis

“B”-studio

所在地	■ 熊本市近見
竣工年月	■ 平成18年3月
用途	■ 専用住宅
構造	■ 木造一部鉄骨造
階数	■ 地上2階
敷地面積	■ 170.95㎡
建築面積	■ 85.42㎡
延床面積	■ 152.85㎡
事業主	■ 戸次和弘
設計者	■ 久野啓太郎／一級建築士事務所ヒマラヤ
施工者	■ 株式会社九州建設



1F



2F



2階



ホール

幹線道路から少し入った『“B”-studio』の前に到着した時から、期待が膨らんだ。

応募書類の写真で見た、挑戦的な構えではなく、道路から3mほど後退した建物の配置が、気持ちの良いオープンスペースを住宅街に提供している。九州的な『おおらかさ』とも言える。道路境界を閉じないのだから、ファサードでバリアーを張る意味が、素直に納得できた。半透明な防雪版の、呼吸するようなフィルターが、外部にも内部にも効果的だ。

平面図の乱暴な印象も、内部に入るとポジティブに裏切られる。エントランスの土間とホールの間を、強引に横断する階段は、ギリギリのバランスで成立し、1階奥の空間と上空の空間へ僕たちを誘う。この住宅では、何処にいても家族と外部の気配が、ほどよい『距離感』で伝わって来る。それは断面構成の巧みさと、注意深くセットされた壁と天井の開口部や動線の回遊性、などから来るものだろう。水廻りのディテールの細やかさなど、そのことは隅々まで徹底していて、接写にも望遠にも、十分に耐えうる高性能のズームレンズのようだ。

若い建築家とクライアントが、共同で楽しい夢を実現しているが、お互いが迎合した様子は微塵もない。むしろ確信者の清々しさがある。この住宅を実現するための、施工者や構造設計家の『志の高さ』も、十分に感じられる。その意味で『くまもとアートポリス推進賞』は、今後、構造設計者の名前も表記した方が良いのではないかと、とも思った。

(武田光史)

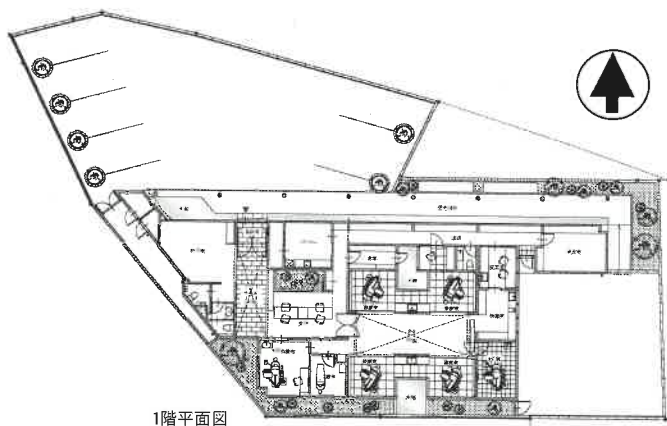


くまもとアートポリス
推進賞



永田歯科

所在地 ■ 熊本市帯山4丁目57-5
 竣工年月 ■ 平成17年11月
 用途 ■ 歯科医院
 構造 ■ 鉄筋コンクリート造
 階数 ■ 地上1階
 敷地面積 ■ 658.56㎡
 建築面積 ■ 271.03㎡
 延床面積 ■ 220.76㎡
 事業主 ■ 医療法人永田歯科クリニック
 設計者 ■ アクティブデザイン
 施工者 ■ 株式会社日動工務店



1階平面図

国体通りに面して、永田歯科の建物は、存在感のある端正な白亜の平屋。同色の円柱と小さな水の流れに沿って外周を見て廻ったときに、大きな窓硝子を通して多くの絵画や写真が展示してあり、ギャラリーの趣き。ドアを開けて内部に入ると、興味深い空間が展開していた。

右手に待合室、左手に受付ブース、予防処置室、診療室、手術室、消毒室などが、大きな空間にほとんどオープンな状態で展開しているのに、それぞれが適度に隔離されていると言う歯科に必要な機能性も併せ持っている。(手術室は衛生上、個室形式)

そこには、小さな庭などの配慮とともに、頭上空間にも変化をもたらす工夫が施されている。通常なら裏に配置するであろう用途廊下を建物の最前面に持ち、そこをギャラリー風にセットしたセンスは印象的。建物の裏に廻れば、関係者専用の駐車場と出入り口。清潔感と誠実さが伝わってくる永田院長のしっかりとした意図を、機能的にデザインしていった設計者の力量が感じ取れる作品は、高い評価に値する。最終審査の席上、ある審査員が、「自分が患者であったら、ここに行きたいですね」と発言したのは評価の証。

視察では直接見ることは出来なかったが、外断熱工法による省エネルギーへの配慮も評価していただろう。

(轟 多朗)



受付



ホール

第11回 2005年度



60 ■k-house in 近見
【熊本市】



61 ■高瀬蔵
【玉名市】



62 ■3Towers
【合志市】



63 ■美里町立中央小学校体育館
【下益城郡美里町】



64 ■玉名温泉 つかさの湯
【玉名市】



65 ■堀田眼科医院
【菊池郡菊陽町】

第10回 2004年度



55 ■九州新幹線新水俣駅
【水俣市】



56 ■SWH
【南阿蘇村】



57 ■田迎の家
【熊本市】



58 ■東海大学附属第二高等学校
【熊本市】



59 ■ひだまりのまち B4
【八代郡氷川町】

第9回 2003年度



51 ■熊本保健科学大学
【熊本市】



52 ■I-HOUSE
【熊本市】



53 ■熊本市現代美術館
【熊本市】



54 ■UEDA.Residence
【熊本市】

第8回 2002年度



46 ■久野邸
【熊本市】



47 ■立田山野外保育センター
【雑草の森】
【熊本市】



48 ■八代の町屋
【熊本市】



49 ■いのうえデンタルクリニック
【熊本市】



50 ■大野温泉センター
【声北郡声北町】

第7回 2001年度



39 ■荏原九州
【玉名郡南関町】



40 ■K.Residence
【熊本市】



41 ■つなぎ美術館
【芦北郡津奈木町】



42 ■神田の舎
【熊本市】



43 ■ガレリアのある舎
【玉名市】



44 ■chase
【天草市】



45 ■キューネット社員寮(希翔館)
【熊本市】

くまもとアートポリス推進賞(第1回～第11回)

第6回 2000年度



■ 八代ハーモニーホール
[八代市]



■ 城南の舎
[下益城郡城南町]



■ 美里町社会福祉保健センター
「湯の香苑」
[下益城郡美里町]



■ ネクステージビル
[熊本市]



■ 熊本YMCA
阿蘇キャンプメインホール
[阿蘇市]



■ セカンドサイト
[熊本市]



■ 露の斎場
[球磨郡多良木町]

第5回 1999年度



■ 水上村立湯山小学校
[球磨郡水上村]



■ 美里町総合交流ターミナル
「石段の里 佐俣の湯」
[下益城郡美里町]



■ 植柳新町公民館
「地域学習センター」
[八代市]



■ シルワ・エッセ
[熊本市]



■ 50M-樓の森美術館
[阿蘇郡小国町]



■ 宮崎耳鼻科
[熊本市]



■ 矢野邸
[熊本市]

第4回 1998年度



■ 老人保健施設かがみ苑
[八代市鏡町]



■ 熊本県信用保証協会
八代支所
[八代市]



■ HOUSE:H-M
[球磨郡あさぎり町]



■ 水俣市保健センター
水俣市総合もやい直しセンター
[水俣市]



■ 古閑邸
[熊本市]



■ 聖母の丘
[熊本市]



■ 下宮はまどん公園
[八代郡氷川町]

第3回 1997年度



■ 久連子古代の里
[八代市泉町]



■ 養護老人ホーム
八代市立保寿園
[八代市]



■ 水俣市宮洗切団地
[水俣市]



■ 丸尾焼工房
[天草市]



■ 人吉の舎Ⅱ/平井邸
[人吉市]



■ 浮島周辺水辺公園
[上益城郡嘉島町]

第2回 1996年度



■ 慈愛園ノーマンホール
[熊本市]



■ 阿蘇白水温泉「瑠璃」
[阿蘇郡南阿蘇村]



■ ふるさとセンターY・BOX
[玉名市横島町]



■ 小国町立西里小学校
[阿蘇郡小国町]



■ 東陽石匠館
[八代市東陽町]



■ 八代広域行政事務組合
消防本部庁舎
[八代市]



■ 野田市兵衛商店
流通団地営業所
[熊本市]



■ 清和物産館
「四季のふるさと」
[上益城郡山都町]



■ 荒瀬ダムポートハウス
[八代市坂本町]



■ 出田眼科病院
[熊本市]



■ 尚玄山荘
[玉名市]

第12回くまもとアートポリス推進賞

募集要項

■ 趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残る文化的資産を創造するため「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーから国の内外より推薦を受けた設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種イベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

■ 表彰対象

概ね5年以内に竣工（改造、改修、修復を含む）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く）とします。

■ 選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- ① デザインが優れているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ 良好な施工が行われているもの
- ④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥ 維持・管理が良好なもの
- ⑦ 地域づくりに寄与しているもの
- ⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

■ 賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。
事業主（必要に応じて管理者を含む）、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

■ 応募資格

自薦・他薦を問わず、どなたでも応募できます。

選考委員

武田光史（日本工業大学教授、(株)武田光史建築デザイン事務所代表）

轟 多朗（デザイントドロキ代表、熊本県文化協会理事）

古谷誠章（早稲田大学教授、スタジオNASCA代表）

星子邦子（オフィスホシコ代表）

松尾正一（熊本日日新聞地方部長兼論説委員）

村橋久昭（崇城大学教授、熊本県建築士会会長）

元倉真琴（東北芸術工科大学教授、スタジオ建築計画代表）

選考経過

募 集	平成18年7月10日～9月8日	応募件数50件
書類選考	平成18年10月2日	
現地審査	平成18年10月27日～28日	現地審査件数9件
最終選考	平成18年10月28日	推進賞5件
表 彰 式	平成19年2月26日	

熊本県

土木部建築課

〒862-8570

熊本市水前寺6丁目18番1号

TEL. 096 (333) 2537

FAX. 096 (384) 9820

<http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html>



くまもとアートポリスのマーク

シンボルマークは3つの楕円と1つの小さな丸で構成されています。

3つの楕円は、左から順に「地域／世界」「くまもとアートポリス／熊本」「ひと／地域」が、互いにつながっていることをあらわします。

楕円の傾きは地球の地軸の傾き（太陽を中心とする公転軌道に対する地球の軸／南北軸の傾き）と同じ23.5度です。

シンボルマークは、くまもとアートポリスの目標「地域と対話、地球とネットワーク」に対応しています。くまもとアートポリスは、地域に生活する人々と対話しながら様々な建造物や環境を創造します。同時にこのような活動は、常に地球規模のネットワークとも繋がり、世界的な環境への配慮や地域文化的な広がりをもっていることを示しています。

第12回 くまもとアートポリス推進賞 作品募集

趣旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーから国の内外より推薦を受けた設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種のイベント、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

2005年度 第11回受賞作品

くまもとアートポリス推進賞



K-house in 近見(熊本市) 外観



K-house in 近見(熊本市) 内観

くまもとアートポリス推進賞選賞



高瀬蔵(玉名市)



3 Towers(合志市)
撮影/飯塚哲也



美里町立中央小学校体育館



玉名温泉 つかさの湯



堀田眼科医院(菊陽町)

募集要項

●表彰対象

概ね5年以内に竣工（改造、改修、修復を含む）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く）とします。

●選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工、及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- ① デザインが優れているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ 良好な施工が行われているもの
- ④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥ 維持・管理が良好なもの
- ⑦ 地域づくりに寄与しているもの
- ⑧ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの

●賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。事業主（必要に応じて管理者を含む）、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。

●募集期間

平成18年7月10日(月)から9月8日(金)まで
なお、郵送の場合は募集期間内の消印があり審査に間に合ったものを有効とします。

●応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

●応募方法

応募用紙に必要事項を記入のうえ添付資料を添えて、熊本県土木部建築課アートポリス・UD班まで提出してください。

添付資料は、配置図・平面図・立面図・断面図等の図面と外観及び内観の写真をA3版の用紙4枚以内（裏面使用は不可）にまとめてください。

応募者は、あらかじめ事業主、設計者、施工者、管理者の了解を得てください。

なお、応募用紙は、くまもとアートポリスのホームページの「顕彰事業(くまもとアートポリス推進賞)」に掲載しています。

<http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html>

●選考方法

提出された書類による書類選考で概ね10作品程度を選出して現地審査を行い、現地審査を行った作品の応募書類と現地審査により最終選考を行います。

●選考委員（50音順）

武田光史（日本工業大学教授、(株)武田光史建築デザイン事務所代表）

轟 多朗（デザインドロキ代表、熊本県文化協会理事）

古谷誠章（早稲田大学教授、スタジオNASCA代表）

星子邦子（オフィスホシコ代表）

松尾正一（熊本日日新聞社地方部長兼論説委員）

村橋久昭（崇城大学教授、熊本県建築士会会長）

元倉眞琴（東北芸術工科大学教授、スタジオ建築計画代表）

●発表

平成18年11月(予定)、該当者及び全応募者に通知します。

●表彰

平成19年2月(予定)、表彰式を行います。

●その他

応募資料は返却しませんので、必要な場合はあらかじめ複写をお願いします。

提出先・問い合わせ先

熊本県土木部建築課アートポリス・UD班

〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1

電話/096-333-2537 ファックス 096-384-9820

メール/kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ/ <http://www.pref.kumamoto.jp/traffic/artpolis/index.html>